

第149回

広島県眼科医会講習会

謹啓 時下、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さてこの度、下記の要領にて、第149回広島県眼科医会講習会をLIVE配信にて、開催する運びとなりました。

先生方にはご多忙中のことと存じますが、何卒ご出席賜りますようご案内申し上げます。

2021年2月21日(日) 11:00～13:00

配信媒体:ZOOMウェビナー

会費：1,000円（事前登録制）

（参加申込、参加費のお支払いに関しましては、別紙

「第149回広島県眼科医会講習会ご参加申込をご検討の先生方へ」をご覧ください）

日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業 2単位(申請中)

日本医師会生涯教育講座 2単位(37:目の充血)

講演1 11:00～12:00 カリキュラムコード 37 (1単位)

座長 広島県眼科医会 会長 皆本 敦 先生

「Ocular Surface最後のUnmet needs：

マイボーム腺機能不全の最新の診断と治療」

伊藤医院 副院長 **有田玲子** 先生

講演2 12:00～13:00 カリキュラムコード 37 (1単位)

座長 広島県眼科医会 副会長 山根 健 先生

「前眼部炎症性疾患の診断と治療戦略」

広島大学大学院 医系科学研究科 視覚病態学

病院診療教授 **近間泰一郎** 先生

共催：広島県眼科医会 千寿製薬株式会社

マイボーム腺は瞼板に存在し、涙液油層を分泌している。まぶたと涙液、両方にまたがった疾患である。つまり、マイボーム腺機能不全（Meibomian Gland Dysfunction, MGD）は眼瞼炎の一因であり、蒸発亢進型ドライアイの主因である。日常の一般診療において私たち眼科医が遭遇する最も頻度の高い疾患のひとつだが、失明しない疾患のため、見過ごされがちだった。今までは対症療法としての治療法しかなく、根本治療として眼科医が処方できる局所治療薬は皆無だった。

2019 年秋にアジスロマイシン点眼液が本邦でも処方できるようになり、状況は大きく変わった。そもそもアジスロマイシン点眼液は 2007 年に米国 FDA に承認されて以来、MGD の特効薬として国際的ガイドラインに掲載され、現在、26 カ国で承認され、30 報以上の論文で MGD に対する効果が報告されている。マクロライド系の抗菌薬であるが、MGD への作用機序は抗炎症であると考えられている。処方の際には眼瞼炎の病名が必要である（MGD は AAO の分類においても眼瞼炎の一因である）。

本講演では、MGD 治療の本陣を“抗炎症”に置き、実際の MGD 患者に処方した臨床例を多数供覧し、最もよい適応や処方のコツを紹介する。さらに国際的に最先端の治療機器である LipiFlow や IPL (M22) を紹介し、重症度による治療方法の使い分けについても言及したい。本講演は、明日からの MGD 診療に役立つ実践的な講演としていく予定である。

《ご略歴》

1994 京都府立医科大学卒業
2001 京都府立医科大学大学院博士課程修了
2002 慶應義塾大学眼科助手
2005 伊藤医院眼科副院長
2007 東京大学眼科臨床研究員
2011 慶應義塾大学眼科講師（非常勤）
2012 LIME 研究会代表
2021 日本角膜学会評議員

受賞歴

2008 ドライアイリサーチアワード受賞
2016 ドライアイ部門 最高インパクトファクター賞受賞

海外での活動

2009 国際ドライアイ学会 (TFOS) MGD ガイドライン 国際理事
2012 国際ドライアイ学会 (TFOS) コンタクトレンズガイドライン 国際理事
2017 国際ドライアイ学会 (TFOS) ドライアイガイドライン (DEWS II) 国際理事

蒸発亢進型ドライアイ・マイボーム腺機能不全の国際的第一人者として活躍中

前眼部炎症性疾患のうち、臨床所見から細菌感染症が疑われる症例では、キノロン系などの広域スペクトルを有する抗菌点眼薬を用いることで治癒することが多い。しかしながら、治療に抵抗する症例も少なからず存在する。実際の起因病原体は、細菌が多いものの真菌やウイルスあるいはアカントアメーバなど多岐にわたり、診断および治療に苦慮することも少なくない。また、角膜に病変が存在していても角膜自身には感染がなく眼瞼や結膜に原因がある場合もある。とりわけ、病変が角膜に及んでいる場合には角膜の混濁や変形を最小限にとどめ視機能を維持するために、早期診断とともに適切な薬剤による治療を開始することが重要である。

早期診断には、眼脂や病巣搔爬により得られた検体を塗抹検鏡して実際の病巣を観察することが治療法選択にとくに重要である。また、同時に薬剤感受性を知るために培養検査を行うことも、起炎病原体の確認や治療方針の変更において重要な情報となる。

本講演では、前眼部炎症性疾患の診断と治療のストラテジーについて、症例を提示しながら解説する。

《ご略歴》

1991 年 3 月 富山医科薬科大学医学部医学科卒業
1993 年 11 月 山口大学医学部附属病院助手(眼科)
1995 年 1 月 宇部興産中央病院眼科医師
1999 年 4 月 山口大学医学部助手(眼科)
2000 年 10 月 山口大学医学部講師(眼科)
2001 年 9 月 アメリカ合衆国オハイオ州シンシナティ大学医学部眼科客員講師
2007 年 3 月 山口大学医学部准教授(眼病態学)
2009 年 7 月 山口大学大学院医科学系研究科准教授(眼科学)
2011 年 1 月 広島大学大学院医歯薬学総合研究科准教授(視覚病態学)
2017 年 4 月 広島大学大学院医歯薬保健学研究科 病院診療教授
2019 年 4 月 広島大学大学院医系科学研究科 病院診療教授